

LOCAL GOOD, SOCIAL GOOD

みらいビジョンの詳細や
生駒駅南口エリア
プラットフォームの活動情報など



いこみなHP

ジモト喜ぶ、みんな集まる



いこみなプロジェクト



公民で描く生駒駅南口の“みらい”

生駒駅南口は大正時代から宝山寺の門前町として栄え、昭和50年代には駅前広場や複合商業施設が整備されました。近年は、空店舗の増加に加え、マンション立地が進み、かつての門前町としての趣きや中心市街地としてのにぎわいも低下するなど、まちの様相が変化しつつあります。

このような課題の解決に向け、公民がともにめざす生駒駅南口の将来のまちの姿や取組み方針【生駒駅南口みらいビジョン】の概要をこの冊子にまとめました。

「まちの顔」とも言われる駅前が、将来どんなところになれば「良いまちだな」と思えるのか。子どもたちがこれから生駒で楽しく、健やかに暮らしていくためには、どんなまちだったら良いのか。共通のビジョンを通じて、今と次の世代の未来をつなぐ必要があります。

関係者がそれぞれにまちづくりを進めるのではなく、同じ方向を向いて進むことで、エリアの価値はさらに高まるはず。その価値をどのように生み出していくのか。地権者、事業者、自治会や市民の皆さんや行政で力を合わせ、まちの魅力・価値向上に取り組んでいきましょう。

生駒駅南口エリア

生駒駅南口の骨格である4つの通り（ぴっくり通り、イコマサウスモール、参道筋、さくら通り）を中心に、商業施設（グリーンヒルいこま）、各公共公益施設が建ち並ぶエリア。



目指す将来像

文化や商い、暮らしが息づき、すごしやすく
関わりやすいまち

宝山寺の門前町として栄えた商業地としての「文化」。連続と続き、新しい取組みが生まれ始めている「商い」。住宅都市として発展する中で培われた豊かな「暮らし」。それぞれがまちに息づき、誰もが居心地良く過ごせ、関わりやすいまちであり続ける姿を目指します。

— 4つのテーマと目標・取組方針 —

都市空間

居心地がよい場が通りで
つながり、ウォーカブル
で滞在したくなる

暮らし

暮らしの質を高める
機能が集まり、住まい
の循環の起点となる

取組方針

協創・対話

誰もが気軽に参加でき、
関わり、みんなで取り組む

商い・観光

このまちの
歴史・文化に触れられ、
新たな生駒らしい商いを生み出す

子ども

子どもの成長に寄り添い、
子どもが過ごす場所がある

公民による連携と 役割分担

本ビジョンの実現に向け、市民・事業者・行政がともに手を取りあい、対話を通して協創することが重要です。

一方で、各者にしかできない役割もあるため、それぞれの長所を活かし、その役割を果たしながら、まちの魅力・価値向上とともに取り組んでいくこととします。

市民

エリア内の場や活動の機会等を活用し、様々なチャレンジや応援を通じて、本エリアへの愛着を育み、表現します

事業者

自らの有する資源やノウハウ等を活かした事業を通じて、本ビジョンと協調した取組みを進めます

行政

市民や事業者の取組みを実現に導くための環境整備や規制・誘導、まちづくり機運の醸成、関連する施策・事業を実施します

都市空間

居心地のよい場が通りで つながり、ウォーカブルで滞在したくなる

本エリアには、来街者の滞留できる場所が少なく、駅や周辺施設から近くのエリアへの回遊が乏しいことが課題です。

そこで、今ある道路空間を活用し、滞留できる場を生み出すことに加え、各通りの個性を感じることができる景観づくりに取り組むことで、ウォーカブル*で滞在したくなる歩行者中心の都市空間へと再編します。

*ウォーカブルな空間とは…
車中心ではなく、居心地がよく、歩きたくなる、人中心のまちなか空間のこと。



まちなかの1階が、まちに開かれ、営みや活動が生まれる グランドレベル・アクティブ化プロジェクト

1階(グランドレベル)に駐車場やエントランスのみのマンションなどの立地が進むと、沿道の店舗の連なりが途切れ、にぎわいが損なわれてしまう可能性があるため、公民が連携し、まちのにぎわいを保つ取組みを進めます。



気軽に入れる
お店が
たくさん。

まちに開かれた
お店が増えて、
まちが賑やかになっ
ています。

歩いて楽しく、滞在・滞留したくなる空間を創り出す 居心地のよい公共的空間の形成プロジェクト

単なる通過動線ではなく、歩いて楽しく、滞在・滞留もできる居心地のよい空間へと変えていきます。商店街のお店と連携し、道路空間や民地の活用を誘導して、まちのにぎわいを創出します。



公共空間を活用した社会実験(令和6年2月)

ベンチやテーブルで休憩したり、お話ししたり。

とても歩きやすく、きれいで安全な道は、子どもにも大人にも嬉しいね。



門前町の雰囲気を出し、 生駒らしさを感じることができる空間に再編していく 趣きある街並み・回遊創出プロジェクト

かつては宝山寺の門前町として形成されましたが、伝統的な建物は少なくなり、その面影を感じにくくなっています。

趣きある街並みを創出し、エリア全体の回遊性を向上させるため、通りごとの個性や生駒らしさ等を継承できる空間をつくります。

駅を降りたら観光施設を指す案内サインが充実していて、宝山寺や山上施設へのアクセスがわかりやすくして嬉しい!



趣きがありながらも整備された空間。

暮らし 暮らしの質を高める機能が集まり、住まいの循環の起点となる

生駒市は大阪などに通勤する市民が多く、ベッドタウンとして発展してきました。

しかし、価値観の多様化やIT技術の発達により、ライフステージに応じた居住環境の選択も含め、働き方や移動、買い物など、市民の日常生活が変わり始めています。

今後は、市内外からアクセスしやすい立地を活かした、利便性の高い駅近居住を実現し、働く場や文化活動の場、店舗など、暮らしの質を高め、生活を豊かにする多様な都市機能の集積を誘導します。



様々なライフステージに応じた、利便性の高い駅近居住を実現する 住まいの循環サイクル構築プロジェクト

駅近である本エリアに、利便性の高い暮らしを求める高齢者や単身、新婚世帯や子育て世帯など、様々なライフステージやライフスタイルに応じた住まいの受け皿を誘導し、将来的に市内の戸建て住宅に住み替えるといった市全体の住まいの循環サイクルの起点をつくります。

また、暮らしの付加価値となる機能を加えたまちづくりを進めます。

住まいもお店も増えて、まちに若い人たちが増えてきた。



活発な経済活動、暮らしの豊かさを実感できる文化活動・交流の場を創出する 生活を豊かにする機能集積プロジェクト

来街目的となる場所が少なく、エリアの集客・来街のポテンシャルを活かしていません。既存ストックの活用や、機能の複合化などにより文化活動、交流の場に加え、働く場所を設けるなど、訪れたい場をまちなかにも創出します。

誰もが使える
便利なスペース。



生駒駅南口エリア今昔 南口エリアの歴史



生駒市の玄関口である近鉄生駒駅。駅の南口は宝山寺の門前町として栄えました。遡ること大正3年、生駒トンネルが開通し大軌鉄道(現近鉄奈良線)生駒駅ができ、その4年後には日本初のケーブルカーが鳥居前駅と宝山寺駅間に開通。昭和50年代にはまちのシンボルであった宝山寺の大鳥居が移設され、グリーンヒルいこまや交通広場の整備、ぴっくり通りにアーケードがかけられるなど、駅前商業地としての近代化が進みました。その後も、生駒セイセイビル等の大型施設が建設されますが、北口の市街地再開発事業による百貨店や複合施設の立地により、人の流れは大きく南から北へと移り変わりました。



日本初のケーブルカーとして開通した近鉄生駒ケーブル



商い・観光

このまちの歴史・文化に触れられ、新たな生駒らしい商いを生み出す

本エリアは、宝山寺の門前町として発展し、生駒山や生駒山上遊園地などの観光資源の玄関口でもあります。

また、社会に貢献することを目的とした店舗や、活発な市民同士のコミュニティ活動を起点に共同運営を行う店舗など、時代に即した新たな商い・活動が現われ始めています。

今後は、単なる買い物や飲食などの消費に留まらず、生駒らしいライフスタイルや価値観・文化等を感じ、体験できることを大切に、新しい生駒らしさを表現する店舗、催しなどの充実を目指します。



空き店舗を活用したチャレンジショップのイメージ

観光拠点と連携した生駒らしい体験や文化を発信する エリアの魅力発信・観光案内プロジェクト

本エリアは、生駒を訪れる方や生駒山・山上遊園地への観光客の玄関口となっています。来街者や観光客に本エリアに立ち寄ってもらうには、この地域ならではの歴史や魅力などを発信することが有効です。魅力を伝え、来街者と繋がる機会を増やすとともに、効果的な情報発信を図り、生駒の玄関口としての機能を強化します。



まちの住人の案内で、隠れた魅力を発見。

まちの既存ストックを活用し、商いの活性化を図る 空き店舗等のリノベーション推進プロジェクト

出店希望者と不動産所有者の意向や、店舗の規模・賃料等の条件が合わず、出店が進んでいません。まちづくりへの理解を深める機会をつくりながら、既存ストック活用の仕組みを構築するなど、新たな都市機能の導入や魅力の創出につなげます。



既存ストックを活用したイメージ

ずっと空いていた店舗も、所有者と出店者の出会いで活かせた。

市民や事業者の起業・創業支援 市民の小さなチャレンジ支援プロジェクト

社会・地域に貢献する市民や事業者の新たな取組みを活発にし、これからの生駒市に活力を与える都市拠点を創るには、チャレンジ意欲のある人を支援することが重要です。まちづくりに関心の高い市民の参加を促し、小さなチャレンジ等を支え、応援できる仕組みを構築し、持続的な魅力創造やにぎわい形成に活かしていきます。



マルシェやチャレンジショップで、小さな起業に挑戦。

子ども

子どもの成長に寄り添い、
子どもが過ごす場所がある

本エリアには、教育に力を入れる生駒の中心として、子育てを支える施設が多くあります。

また、若者や高齢者、障がいを持った人など、さまざまな人たちとの関わりあえる環境や機会をつくることも、子どもの成長に繋がります。

生駒を好きになり、将来の生駒を担う人材を育てることをめざし、子どもとまちが関われる機会や居場所をつくる取組みを進めます。



子どもや子育て世代にとって居心地がよく、まち全体で子どもを包み・育てる 子どもを育てるまちプロジェクト

子どもや子育て世代にとって、より利便性が高く、安心して居心地のよいまちになるよう機能や施設の充実をめざします。また、地域の高齢者やお店の方など、子どもとまちの人々が関わり合うことで生まれる交流や関係づくりを通じて、まちへの愛着を育み、関わり続けるきっかけをつくります。



塾までの時間の予習に、子どもが使いやすいスペースが嬉しいな。

はじめてのおつかいも、いつも良くしてくれるお店で安心。

協創対話

誰もが気軽に参加でき、関わり、
みんなで取り組む

公民連携によるプロジェクトを進め、将来のまちの姿を実現していくためには、市民や事業者が新しい活動や商いに取り組みやすく、さらに市民が取組みを応援できる仕組みを構築することが必要です。

また、高齢者や若者、障がいをもった人たちも含め、様々な立場や環境にいる人たちが本エリアについて関心をもち、取組みに参加できるよう広く情報発信を続けることも重要です。

身近で気軽な関わりを広げながら、理想的なまちの実現へとつなげていきます。

取組み例①

みんサpoiこま

(奈良先端科学技術大学院大学：
ユビキタスコンピューティング研究室)

まちの活力につながる「ソーシャルグッドな活動」を応援できる仕組み。アンケートへの回答などでポイントをゲットし、そのポイントを使って地域の取組みを応援できます。獲得ポイントに応じ、企業等の支援で集まった原資を、各取組みに分配します。



生駒駅南口
みんサpoiこま



取組み例②

BASE 生駒

(生駒市市民活動推進センターららポート)



生駒が好きな人たちが繋がり、生駒をより良くするために、フラットな立ち位置で、様々なことを話し合うハブ拠点です。市民の「やりたいこと」の実現に向けた伴走支援や、まちづくりに関わるイベントの企画運営・セミナーなどを実施しています。

段階的な進め方 -小さく始め、少しずつ広げる-

これらのプロジェクトなどの取組みを、関係者全員で勉強や理解を重ねながら、考えたアイデアを小さく始め、うまくいった事例を少しずつ広げていきます。